

東南アジア研究センター

昭和38年第3・4 四半期情勢報告

「東南アジア研究」第3号がいろいろな都合で3カ月刊行がおくれたので、ここに昭和38年10月より昭和39年3月に至る昭和38年度第3、4の両四半期間の東南アジア研究センターの情勢をまとめて報告したい。

まず**研究計画**としては、タイにおいて10月から現地調査を本格的に着手した。第一には、ピルマ・タイ中核調査計画として農業技術改良とその滲透をテーマとする、本岡助教授および佐藤兵庫農大教授・渡部京都府大助教授による調査研究が実施された。第2には、特殊調査研究計画のうちの自然環境班として、堤助教授および大学院学生萩野和彦・菅誠・渡辺弘之君らによる森林調査、川口教授および大学院学生齊藤万之助・古川久雄両君による土壌調査、木村康一教授および糸川東京理科大学助教授・加世田長野県技師による生薬調査が行われた。さらに第3には、自然科学調査研究計画として、西尾雅七教授および浅山亮二教授・上野一也講師による医学予備調査が行なわれた。いずれもタイ国政府総理府国家研究会議をとおして政府および大学諸機関との密接な協力のもとに、所期の調査研究をおえることができた。

なお、この研究計画に関連して、バンコック連絡事務所が39年2月7日に開設され、開所式のために奥田東京大総長、岩村忍東南アジア研究センター所長および天城勲文部省調査局長が出張した。

養成計画としては、去る10月留学生詮衡がおこなわれ、関係大学との打合せも終了、この4月以降前田成文（マラヤ大学）、桂満希郎（チュラロンコン大学）、福井捷朗（カセツアート大学）、小林一三（コーネル大学）、酒井敏明（エール大学）が派遣されることとなった。また調査研究計画に参加した5名の大学院学生の現地調査も大きな意味をもったと思われる。

交換計画としては、国内の東南アジア研究者の研究会で報告、アジア経済研究所主催講演会の講演、海外の研究者の来訪等をあげることができる。

図書整備計画としては、Human Relations Area Files (H R A F)の到着をあげたい。H R A Fについては、本誌第2号が紹介しているので参照されたい。古今東西の地域研究の成果を一堂に集めたH R A Fが到着したことは、京大の地域研究が、いわば万軍の援けを得たに等しいことを意味する。なお、H R A Fのファイルは、目下、使用開始に備えて整理中である。

出版計画としては、「東南アジア研究」の第2号刊行、および邦文・英文東南アジア研究センター要覧の改訂版（昭和39年2月版）の刊行があげられる。

この3月末でもつて、東南アジア研究計画の第1年度を終了したのであるが、ほぼ予定どおり計画を遂行したことを報告できる。

昭和39年3月

京都大学東南アジア研究センター所長

岩 村 忍